



盛岡市保健所長
矢野 亮佑

東京都出身。幼稚園から高校の途まで米国で過ごす。平成22年東京医科大学卒業。地域医療振興協会の門をたたき、伊東市民病院(静岡県)での臨床研修を経て、24年に尾駮診療所(青森県)に赴任。26年に青森県に入庁し、むつ保健所、三戸地方保健所に勤務。令和2年より現職。社会医学系専門医・指導医、日本医師会認定産業医。

公衆衛生医師になって8年目になりました。「自由」語る」とお聞きしたので、COVID-19対応に忙殺される中、今回いただいた貴重な機会を、^{せんえつ}僭越ながら自分を振り返るミニ短編回顧録とさせていただきます。原点は人、暮らし、「コミュニティ」への関心、そして改めて思ったことは「公衆衛生は飽きない」です。御笑覧いただければ幸いです。

ゲイクリニックとの出会い

医学部3年が終わる春休み、米国サンフランシスコのカストロ地区にあるマグネットというクリニックに出合いました。サンフランシスコはLGBTの人口割合が米国で最も高く、カストロ地区はゲイメッカとされています。クリニックの発端は、1980年代にHIV/AIDSが認識され始めてきた頃に、ゲイの保健医療従事者やコミュニティリーダーによって立ち上げられた無料の健康相談・検査でした。ゲイに対する社会的差別がまだ根強かった当時、ゲイ自身のための健康づくりとして始まった活動は、「コミュニティ

の連帯感を強め、アドボカシーへつながったといえます。壁にはゲイによる絵画が掛けられ、受診せずとも自由に出入りできる待合室は憩いの場となっており、休日にはLGBTの結婚式や政治集会等に使われ、クリニックとは表現し切れない存在でした。住民自身による住民のための活動がエンパワーメントに発展した物語に心動かされました。

タイから始まった グローバルヘルス

医学部4年時に熱帯医学の恩師の紹介でタイ王国マヒドン大学 ASEAN Institute for Health Development

らこそ分かったことです。外来、初期救急から内視鏡や超音波など各検査、入院、加えて訪問診療や高齢者障害者施設の回診、予防接種や健診、産業医まで幅広く行う中、最も楽しみにしていたのは地域ケア会議でした。関係者とケアの目標を共有し、話し合い、コーディネートする場としての有効性を実感しました。

下北の健康なまちづくり

診療所から保健所に時々足を運ぶうちに、当時の保健所長にお声掛けいただき、保健所医師として歩み始めました。初めて着任したのは、恐山や大間マグロなど風光明媚な地形や豊かな海と山の幸が与える印象とはかけ離れて健康指標が芳しくない下北地域を管轄するむつ保健所でした。男性の平均寿命は全市町村が全国1896市区町村中ワースト50に入っているのです。短命県青森でも特に平均寿命が短い下北では、肥満者割合、食塩摂取量、平均歩数、喫煙率、飲酒習慣者割合などの指標もよくない中、県が音頭を取って「下北地域健康なまちづくり運動」を展開し始めていました。教育事務所が親子の料理教室を行ったり、農

(AID)の研修に参加しました。「すべての人に健康を」と1978年にアルマ・アタで宣言されたPrimary Health Care(PHC)の理念と実践に感銘を受けるとともに、タイの都市部や農村の保健医療現場を学びました。公的医療保険の下、公的な医療体制が維持されていますが、各地区に設置されている保健センターでは、看護師や公衆衛生士が健康づくりと一次医療の一部を担うだけでなく、地域の僧侶やコミュニティリーダー、地元職人等と手を携えながら健康づくりやまちづくりに関わっているのです。人・金・物は必要ですが、できない理由を探すのではなく、知恵を絞り合っていく範囲で工夫する大切さを痛感しました。これを皮切りに、時に大学の講義を欠席してはアルバイトの貯金で他国の保健医療現場、国内外のへき地や離島、ホームレス地域、難民キャンプ、障害者施設、在留外国人コミュニティ等に足を運びました。

の保健福祉行政管理分野で学んだ組織や事業の管理・運営の考え方は大いに役立ちました。また、当時は2016年の熊本震災をはじめ、毎年のように各地で豪雨など災害が発生し、健康危機管理の現地拠点となる保健所の役割が国や県で整理されていく中、DHEAT研修等も経て、発災時に職員誰もが所内横断的体制の活動を立ち上げられるようアクションカードを整備しました。

COVID-19の流行が本格化する中、盛岡市にお声掛けいただき、悩みながらも中核市保健所長を経験する機会と捉えて県境をまたぎました。これで県型保健所、中核市が圏域にある県型保健所、中核市保健所を経験したことになります。中核市保健所は管轄する地域が設置市のみである一方、県との調整、議会や報道対応など本庁的業務、県型保健所との連携、保健センターなど市町村としての業務も担い、同じ保健所でも県型とは業務や時間の流れが異なるのです。赴任して、新型コロナウイルスという災害に対して感染症担当課の一部職員が孤軍奮闘している様子を目の当たりにし、すぐに所内横断的体制に改編しまし

青森で地域医療にダイブ

卒業後は静岡県伊東市で唯一24時間救急患者を受け入れる伊東市民病院で初期臨床研修を行い、体力と度胸と、分らないながらも患者さんの安全を第一に、動きながら考えて判断する力が培われたと思います。3か月の地域研修で訪れた青森県六ヶ所村の尾駮診療所には、医学的診断を基に、患者自身の病の捉え方、文脈、生活背景をひも解きながら、患者が困っていることの解決のための最適解を本人や家族等と模索するアプローチに魅かれ、志願して研修終了後に赴任しました。働き過ぎて全身筋肉痛で来院した農家、改善しない糖尿病の原因が栄養ドリンクと菓子パンだった漁師、山菜を食べ過ぎてワーファリンの効果が春先に減弱する高齢者、釣れた魚を近所にお裾分けして起きたアニサキスのプチ集団感染などは、地域に飛び込んだか

た。しかし、組織も大きくもともとと決裁権や予算要求も各課単位で持つ中、まとまるのは容易ではなく、保健所のあるべき姿を問いかけ続け、昨年11月に初の大規模クラスターという危機を乗り越えて初めて一丸となったと感じています。

今後

地域包括ケアシステム、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム、子育て世代包括支援センター、住民主体の課題解決力強化・包括的な相談支援体制などはすべて地域共生・包摂に通じ、グローバルヘルスでうたわれるUHC(Universal Health Coverage)、ひいてはPHCから引き継がれSDGsの根底にある誰一人としてとり残さないインクルーシブな社会の構築につながります。ここに時間軸を入れることで健康危機管理も包含されます。住民の健康と安全という願いは皆同じはず。できる人が各々動くのではなく、明確なミッションの共有の下、業務を組み立てて動き、出合った地域でエンパワーメントの芽を咲かせる一助でありたいと思います。最後に、この場を借りてこれまでの出会いに感謝、感謝です。

中核市のある八戸地域を経て 中核市盛岡へ

保健所の一専門職として3年間を過ごした後、管内の八戸市が中核市移行したことで名称が変わった三戸地方保健所に所長補佐的立場として赴任し、管理的立場を初めて経験しました。視点も変わり、保健所のミッションは何か、業務のあるべき姿や優先順位は何か、住民や関係者のニーズに心えているかなどを毎日考えていました。ここで国立保健医療科学院

*1 平成27年市区町村別生命表厚生労働省